

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 年 月 日

事業所名 キッズワールドサポートOcean II

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		7	活動時にプレフロアが狭く感じるが活動リーダーが工夫して支援を実施している。	プレフロア、相談室は定員に対して適切ではあるが、活動の際は室内の有効性を工夫する必要があり職員連携し対応させていただきます。
	2	職員の配置数は適切である	1	6	もう少し連携を話し合う必要がある	感染症時に病欠が発生した際は、欠員が出た為、足りないときもあった。健康管理を行い、欠員がでないように配慮していく。また、職員間での連携を密にして職員の配置を考慮して、有効的に支援に取り組んでいきたい。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5	2	一部分のみバリアフリーになっている。今後、身体的特性の児童が利用になった際は改善が必要だと思う。	利用者のニーズに合わせて合理化を図っていきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4	3	児童に合わせた活動を展開している。	清潔さと心地よい空間を目指せるように努めていきます。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7		会議等非常勤職員にも参加できるように時間に配慮している。	必要に応じて、ケース会議を開催し、できるだけ参加しやすいように日程調整している。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7		アンケート調査の結果については職員会議を開き、保護者等の意向を全員が把握するとともに、課題については、今後どのようにすればいいのかを議論して改善に努めている	左記の内容で継続していく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	1	年に1回ホームページでアップしている。	当事業所のホームページで公開していると言うことを非常勤も含めて全職員で共有している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	3	第三者を交えた外部評価を実施したことがない。	第三者委員と提携し会社をより良いものに改善していきたい。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7		もっと学ぶ機会が欲しい	研修は定期的を実施しています。また、今後も継続して支援に必要な内容の研修や勉強会を行っていく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7		日頃から課題分析を行い計画を作成。	児童発達支援管理責任者を中心に児童指導員・指導員を含む全体職員でアセスメントを行い、支援計画を作成しています。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7		アセスメントツールを使用しています。	定期的にあセスメントの更新を行い、関係職員にて周知徹底し支援に反映していく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	1	児童発達支援の提供すべき支援内容から具体的な項目を選択して支援内容を設定している。	全職員が内容を把握できるように全体研修を実施していく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7		職員で支援計画書を周知し共通認識をもって支援している。	今後も支援計画書に沿った支援に努めていく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	1	職員で話し合いの場を持ち活動に取り組んでいる。	今後活動プログラムの勉強会を実施し、児童支援に寄り添って作成していく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		様々な情報を集め活動に取り入れている。	児童の特性に合わせて活動を検討と実施を行っている。又、月に一度保護者へ配布も行なっている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7		モニタリングを行い計画書の作成を行っている。	支援計画書に沿った支援や集団での過ごし方等を適時話し合いながら作成を行っている。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		その都度職員間にてスケジュールや支援内容の確認を行っている。	前日のブリーフィングを行い、職員間で支援の見直しや解決策を話し合い支援に反映させている。今後も継続していく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	1	翌日の午前中に申し送りと一緒に実施しています。	今後も児童支援の話し合いは細かく行い日々の成長のサポートさせていただきます。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		個々のファイルを作成し日々支援内容を記録しています。	サービス提供記録に記入後モニタリングや担当者会議等での振り返りに活用している。記録内容を元に計画書の見直しも随時行っている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7		定期的にモニタリングを行っています。	適時モニタリングを実施し支援の評価と見直しを行っている。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1	児発管または現場児童指導員にて担当者会議に参加している。	適時モニタリングを実施し、支援の評価と見直しを実施している。見直し内容と日頃の利用状況をまとめ適切な職員で対応を行っている。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	2	行えていない。	必要に応じて参加をし、関係機関と連携した支援を行っている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		7	医療的ケアが必要な児童はいない。	今後、医療的ケアが必要な児童が入所になった際は、主治医と連携図り、成長のサポートをしていく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		7	医療的ケアが必要な児童はいない。	今後、医療的ケアが必要な児童が入所になった際は、主治医と連携図り、成長のサポートをしていく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6		学校お迎え時に先生から情報を頂いている。	関係事業所との情報共有と連携を図っていききたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7		移行時に、情報共有を行っている。	移行時に、情報共有を行っている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	6	月に2度言語聴覚士さんに来てもらい言語訓練などの助言はもらっています。	今後情報共有が必要な場面では連携を図っていききたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		7	コロナ禍前は近隣学童とハロウィンイベントを通して交流していた。	機会があれば交流行っていきたい。イベント等を利用しながら遊びの幅を広げる取り組みを実施していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		6	参加したことがない。	機会があれば参加していききたい。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		送迎時の申し送りや電話、LINEを活用し日頃から保護者と情報共有や共通理解に努めています。	今後とも保護者との関わりを増やし、家族の困りごとを親身に受け止め連携を図っていききたい。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	4	要望があれば情報提供をしていきたい。	ペアレントトレーニングを希望している保護者へは研修情報があれば提供している。また、当事業所でもペアトレの観点で話し合いができるような環境も検討して行きたい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		契約時に丁寧な説明を行っています。また内容が変更されるたびに再度説明を行っています。	今後も丁寧な説明に努めます。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6		作成した支援計画書を元に保護者へ説明をし同意を得ている。	分かりやすい説明を行い、計画書に同意を得ていく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7		送迎やモニタリング会議など、その都度話し合いを伺い助言と支援を行っています。	保護者が相談しやすい関係性を築いていきます。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		7	コロナ禍もあり実施できていない。	コロナウイルスもあり実施できていないが、今後保護者を交えた交流会やイベントを企画して行きたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7		相談ボックスを設置し把握に努めています。相談があった場合は児童発達管理責任者にて対応しています。	今後も迅速にかつ適切に対応できるように体制を整えていきます。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7		毎月の予定表を配布しています。また個別でも連絡体制も整えています。	活動予定や会報を配布しその都度事業所での取り組みや子ども達の様子を報告していきます。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7		誓約書を交わし周知、管理を徹底している。	守秘義務を順守します。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7		個人の特性に配慮しています。	日々試行錯誤し、よりよい情報伝達ができるように改善していきます。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	4	地元のお祭りに、日頃練習しているダンス活動の発表の機会を頂き実施する事が出来た。	地域のイベントに参加のみではなく、事業所内でも地域参加が出来るような取り組みを検討して行く。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5	2	対応マニュアルはあるが、内容は保護者には伝わっていないと思う。	防火、防災、防犯訓練実施の度に保護者へ内容や様子を引き継ぎ、マニュアル等の周知に取り組みたい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7		避難訓練は行っているが、救出は行っていない。	避難訓練の実施頻度を増やして、質を高められるように職員間で話し合っています。また、避難の際の救出を想定した内容も訓練の一つとして組み込んで行きたい。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	7		アセスメントや保護者からの相談内容などから情報を収集し、職員間で周知している。	継続して情報収集と周知を行います。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	2	アレルギー診断書はあるが、医師より情報共有や指示はない。	アレルギーの内容に応じて主治医に確認を取りながら情報共有を図れるように考慮していきます。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7		その都度ヒヤリハットを作成しミーティングにて報告、共有しています。	危険回避、安全意識の向上を図るため、共有徹底している。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	1	年2回、研修を実施しました。また虐待防止研修終了者に伝達研修も行いました。	定期的に研修、事業所内勉強会を実施し日々の支援に努めていきます。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	1	2	研修を行い共通理解している。	拘束が必要な児童は現在いない。やむを得ない理由で拘束の必要性が出てきた際は、職員間、保護者と情報共有を密に対応させていただきます。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。